

果樹カメムシ情報第1号

平成22年5月21日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

**豊橋市の予察灯で5月20日の夜にチャバネアオカメムシが大量誘殺！
越冬成虫の活動が活発になってきています！
今晚（5月21日）も夜温が高いので果樹園への飛来に注意してください！**

1 発生状況

- (1) 今年2月に行った、常緑広葉樹林におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫量調査では、1平方メートル当たり4.91頭と過去14年間で最も多く、また、県内15地点を調査したうち、12地点(過去平均6.9地点)で越冬が確認されました。
- (2) 豊橋市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、5月第4半旬に急激に増加し、5月上中旬の総誘殺数は、平年の3.8倍(本年261頭、平年69.3頭)と過去10年間で2番目に多い状態です(図1)。また、新城市の予察灯における誘殺数も増えてきています。
- (3) 豊田市および豊川市のチャバネアオカメムシのフェロモントラップの誘殺数も5月20日の夜に多くなり(図2)、県内の広い地域でチャバネアオカメムシの果樹園への飛来が始まっていると思われます。
- (4) 現在、平坦部の果樹園においてもチャバネアオカメムシの飛来が確認されてきており、ウメ、モモ、ナシでは被害が散見されています。今後、気温の上昇とともにさらに活動が活発になり、被害の拡大が懸念されます。

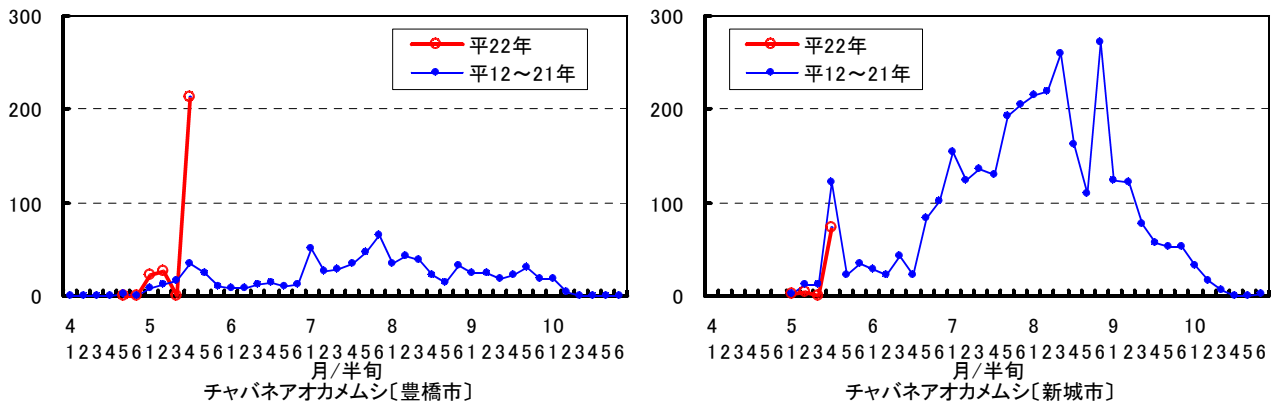


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数

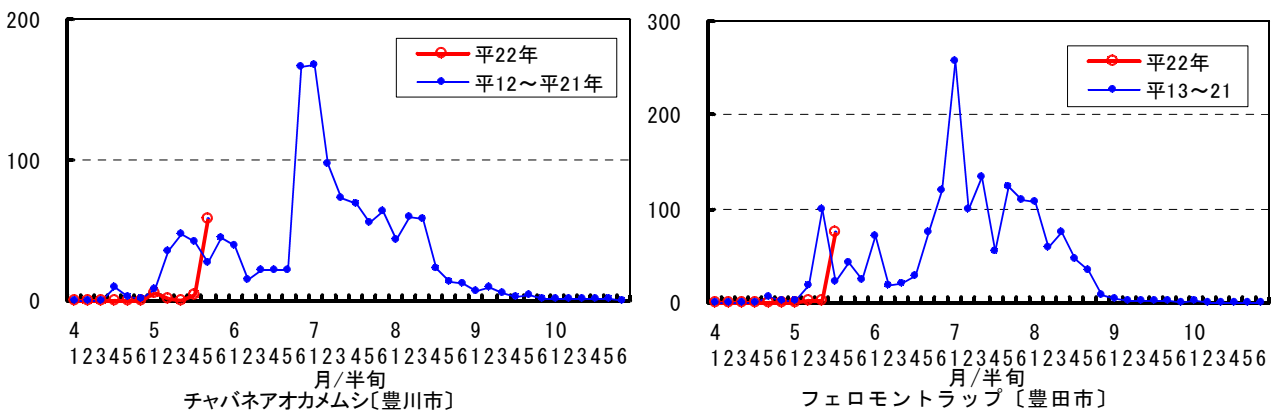


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数

2 防除対策

- (1) カメムシ類は、気温が高く風が弱い夜に果樹園に大量飛来するので、ほ場での成虫の飛来を確認しましょう。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があります。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意しましょう。
- (3) 越冬成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、次表を参考に残効の長い合成ピレスロイド剤もしくはネオニコチノイド剤を散布しましょう。
- (4) チャバネアオカメムシに果実を吸汁されると、小ウメや幼果期のモモは落果し、大粒種のウメや幼果期以降のモモでは吸汁痕が残る。また、ナシやブドウでは、加害部が陥没し、品質が低下します。そのため、袋がけをする場合は、なるべく早く行いましょう。
- (5) 農薬の散布に当たっては、他の農作物や人畜に害を及ぼさないよう飛散防止に努めましょう。
- (6) 農薬はラベル表示事項を守り使用しましょう。

カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

| 作物名 | 薬剤名 | 系統 | 希釈倍数 | 収穫前日数 | 使用回数 |
|-----|----------------------|----|------------|----------|------|
| ウメ | ダントツ水溶剤 | ネオ | 2000～4000倍 | 収穫3日前まで | 3回以内 |
| | スカウトフロアブル | ピレ | 2000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| | スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤 | ネオ | 2000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| モモ | テルスター水和剤 | ピレ | 1000倍 | 収穫14日前まで | 2回以内 |
| | ダントツ水溶剤 | ネオ | 2000～4000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 |
| | アドマイヤー水和剤 | ネオ | 1000倍 | 収穫3日前まで | 2回以内 |
| | MR. ジョーカー水和剤 | ピレ | 2000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| | スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤 | ネオ | 2000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| ナシ | MR. ジョーカー水和剤 | ピレ | 2000倍 | 収穫14日前まで | 2回以内 |
| | アドマイヤー水和剤 | ネオ | 1000倍 | 収穫3日前まで | 2回以内 |
| | テルスター水和剤 | ピレ | 1000～2000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| | ダントツ水溶剤 | ネオ | 2000～4000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| | スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤 | ネオ | 2000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| | スカウトフロアブル | ピレ | 1500倍 | 収穫前日まで | 5回以内 |
| ブドウ | スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤 | ネオ | 2000倍 | 収穫7日前まで | 2回以内 |

注) 系統の「ネオ」はネオニコチノイド剤、「ピレ」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

3 その他

- (1) ウメ、ナシでは、開花期において低温等の影響により着果数が少なくなっているため、チャバネアオカメムシによる被害が多発すると出荷量の減少が懸念されます。
- (2) チャバネアオカメムシの越冬成虫は7月下旬頃まで生存し、カキ園にも大量に飛来することが予想されるため、今後、注意が必要であります。

4 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除グループ
電話: 0561-62-0085 (内線471)